

エキノкокスの治療薬とは

先日、北海道道庁の男性と飲んでいた時に「エキノкокスって知っていますか？感染すると症状がでるまで10年から20年かかるそうで発症した時には、いつ感染したかも分からないそうです。何か特効薬は無いのですかね？」と聞かれました。「私の知識の引き出しには無いなあ」と答えざるを得なかったのですが、その話で私は小学校時代に少年サンデーで連載していた「暗闇五段」という盲目の柔道家漫画を思い出していました。確かその中で三年殺しという技があったはずといろいろと調べてみると三年殺しは「空手バカー代」という漫画に出てくる三角飛びという秘技でキックを受けた時は大丈夫なのですが徐々に体調が悪くなり三年後には狂い死ぬという想像上の技であることが分かりました。六十年前の記憶は当てになりませんがエキノкокスは3年以上も潜伏期をもつ感染症だったわけです。もう一つのエキノкокスの記憶は大学時代に見たブラックジャックの漫画のエピソードです。

1) エキノкокスとは

以下、北海道立衛生研究所のホームページから。**寄生虫**の一種で主に**キタキツネ**を含むキツネやイヌなどに**親虫**が寄生し卵(**虫卵**)を産みます。そして虫卵がキツネの糞とともに体外に出されます。野外にいる**野ネズミ**が餌と一緒に虫卵を食べると虫卵は腸で孵化して門脈を介して**肝臓**にたどりつき、そこで**幼虫**として**増殖**を始めます。そのような幼虫を体にもった野ネズミをキツネが食べるとキツネの腸の中で親虫になって再び卵を産み出すようになります。エキノкокスはこのような生活サイクルを繰り返します。**親虫が寄生**する動物を**終宿主**と言いキツネやイヌになります。ネコやタヌキも終宿主となり得えますが親虫の発育が悪いと言われています。**幼虫が寄生**する動物を**中間宿主**と言い野ネズミ類になります。ブタ、ウマ、**人も**宿主になり得ますが野ネズミ類より幼虫の**発育は悪い**と言われています。

2) 人への感染症と治療

人が偶発的にエキノкокスの寄生したキツネや糞を直接さわったり、糞に汚染された山菜や沢水を口にすると感染の危険があります。**人**では**虫卵**を摂取すると体内で**幼虫**になり寄生し、主に**肝臓**で**増殖**するため肝障害を起こします。数年から10数年の無症状の潜伏期を経て、さらに5年～10数年で進行期、完成期を迎え肝障害の様々な症状を起こします。重症化すると死に至る怖い感染症になります。

現時点での治療法は**手術で感染部位を切除するしか方法**がないとされており早期発見・早期治療が重要になります。外科手術後の再発予防に、あまり馴染みのない薬ですが**アルベンダゾール(エスカゾール[®]錠)**、**メベンダゾール錠**の駆虫薬による長期投与があります。それだけに予防が重要になります。北海道庁ホームページでは次のような感染予防対策が記載されているので紹介しておきます。**1. 外から帰ったら必ず手洗いをする、2. 沢水や小川などの生水は飲まない、3. キツネの餌になる残飯や生ゴミを放置しない、4. 犬の放し飼いはしない、5. 野山の果実や山菜はよく洗うか十分に加熱する(虫卵は-20℃でも死滅しないが煮沸(100℃1分)で確実に殺滅できる)、6. キツネの体毛に虫卵が付着していることがあるので野生のキツネに餌付け・呼び寄せ・手で触れるのはやめる。**さらに北海道では各市町村単位で5年以上検診を受けていない人に血液検査を行っているそうです。さらに言えば本州でも犬の糞からエキノкокスが発見された報告(厚生労働省HPより)もあるそうですが北海道以外の住民が知らないだけで北海道の医療機関や薬局では珍しくない寄生虫や駆虫薬かもしれませんね。(終わり)